

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-31	中学校	国語科	国語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 727	新編 新しい国語 1		

1. 編修の趣旨及び留意点

一生ものの「言葉の力」を育てたい。思考を巡らし、想像を広げ、他者とコミュニケーションをとりながら、日々をいきいきと暮らし、主体的に社会に参加していくための言葉の力。

心に響く「珠玉の日本語」をだいじにしたい。古代より現代に至るまで、豊かな言語文化の伝統の中で磨かれながら、人々の知恵と思いを伝える役目を果たしてきた珠玉の日本語。

言葉の力を育み、珠玉の日本語を受け継いでゆく。そんな願いを込めて、私たちはこの教科書を編みました。

2. 編修の基本方針

1. 「言葉の力」を、しっかり鍛える。

—どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。

この作品を読むことで、この文章を書くことで、このスピーチをすることで、どんな力を養っていくのか。それぞれの学びのポイントを、「言葉の力」という囲みで明示しています。

力がつくのは、実践と基礎トレーニングの繰り返しから。小説を読んだり、意見文をまとめたりすることが実践なら、国語科の基礎トレーニングとは？ その問いに、「学びを支える言葉の力」が答えます。

2. 知性と感性を、もっと豊かに。

—日本の言語文化を受け継ぎ、未来を切りひらいてゆく言葉の担い手を育てます。

よりすぐりの古典作品に加えて、鑑賞・紹介の文章や美しい写真資料を豊富に盛り込み、古典の世界へいざないます。格調高く手応えのある近代文学、親しみやすく心に残る現代文学も、手厚く取り上げました。

また、中学生の発達段階と知的好奇心に応じて、現代の科学の成果や社会・人間の抱える問題についてやさしく説いた文章を掲載しています。構成の明快な文章を通して、論理的な思考の筋道を学べます。

3. 学ぶ心に、火をつける。

—生徒を主体的な学びへといざなう仕掛けを随所にちりばめました。

ばらばらと教科書をめくり、たまたま開いたページをつい、読みふけてしまう。いつのまにか学びが始まっていて、本を閉じたときには、生徒の言葉の世界が少し豊かになっている。そんな教科書になるよう、学ぶ意欲を引き出す紙面を追求しました。

個性ある6人の生徒たちと案内役のキャラクターとともに、豊かな言葉の学びへの扉を開きます。



1. 「言葉の力」を、しっかり鍛える。

—どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。

① 「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの学習材で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として明確に示されています。

- 「言葉の力」は、習得と活用を繰り返しながら3年間で系統的に積み上がるように配置されています。
- 習得した知識・技能を後の学習で活用することによって、思考力・判断力・表現力を高めることができます。

② 「話す・聞く」「書く」「読む」の「言葉の力」を支える学習材「学びを支える言葉の力」(基礎編)が用意されています。3領域に共通して必要となる基礎的な知識・技能を、取り立てて鍛えることができます。

- 「学びを支える言葉の力」への導入として、本編に「学びの扉」が設けられています。
- 「学びを支える言葉の力」で学んだことは、国語科だけでなく、他教科の学習や実生活にも生きてきます。

読むこと				書くこと				話すこと・聞くこと				
言葉とメディア	文学	言語	言語	感性・創造	情報発信	通信・手紙	論証・説得	伝達	詩歌創作	話し合う	話す	聞く
● 情報源を把握する [193]	● ニュースの見方を考えよう [169]	● 少年の心の思い出 [169]	● 少年の心の思い出 [169]	● 詩の心―発見の喜び [20]	● 感じたことや考えたことを表現する [20]	● 作品のよさを表現しよう [20]	● 学校新聞の記事を書く [153]	● 根拠を明確にして書く [11]	● 小論文発見を詩にしよう [200]	● 話し合いで理解を深めよう [118]	● 相手の考えを受けて話す [200]	● 会話が弾む質問をしよう [57]
● 事実と言葉の関係を認識する [193]	● 「正しい」言葉は信じられるか [169]	● 哲学的思考のすすめ [169]	● 哲学的思考のすすめ [169]	● 短歌を楽しむ [20]	● 短歌を楽しむ [20]	● 短歌を楽しむ [20]	● 反論を考える [11]	● テーマを設定する [11]	● 短歌のリズムで表現しよう [200]	● 話し合いで問題を検討しよう [118]	● 相手の考えを受けて話す [200]	● 問題意識を持って聞く [20]
● 情報源を把握する [193]	● 人物像に着目する [169]	● 故郷 [169]	● 故郷 [169]	● 俳句の読み方、味わい方 [20]	● 俳句の読み方、味わい方 [20]	● 俳句の読み方、味わい方 [20]	● 複数の対象を比較する [11]	● 内容を膨らませて書く [11]	● 俳句を作って句会を開こう [200]	● 話し合いで問題を解決しよう [118]	● 相手の考えを受けて話す [200]	● 評価しながら聞く [20]

創造的な言葉の力		論理的な言葉の力		実用的な言葉の力	
表現する力	解釈する力	議論する力	分析する力	説明する力	整理する力
● 鮮やかに表現する [245]	● 文脈を捉え、伏線に気づく [242]	● 質問する [239]	● 事実と考えを区別する [236]	● 順序立てて説明する [233]	● 分類する [230]
● 想像を誘うように表現する	● 人物像を捉える	● 反論する	● 論証の組み立てを捉える	● テーマを立てて説明する	● 要約する
● 素材を生かして表現する	● 人物どうしの関係に着目する	● 合意を形成する	● 論理的に読む	● 目的や相手に応じて説明する	● 比較する

巻末「言葉の力 一覧」

2. 知性と感性を、もっと豊かに。

—日本の言語文化を受け継ぎ、未来を切りひらいてゆく言葉の担い手を育てます。

教育基本法 第1章 第2条に掲げられた目標を達成するために、以下の観点で題材を選定・作成しました。

- ① 日本の伝統・文化への理解を深め、親愛の情を持てる題材
- ② 情報化・国際化の進む現代社会を担っていく素養を育む題材
- ③ 論理的・批判的に考え、説得力をもって伝える力を磨く題材
- ④ 豊かな想像力と、共感する心、他者と協働する精神を養う題材

① 日本の伝統・文化への理解を深め、親愛の情を持てる題材
いにしえより届く、言葉の贈り物。



左：p.139-「竹取物語」
中：巻頭絵「四季を楽しむ言葉」
右：p.127 扉（「いろは歌」）

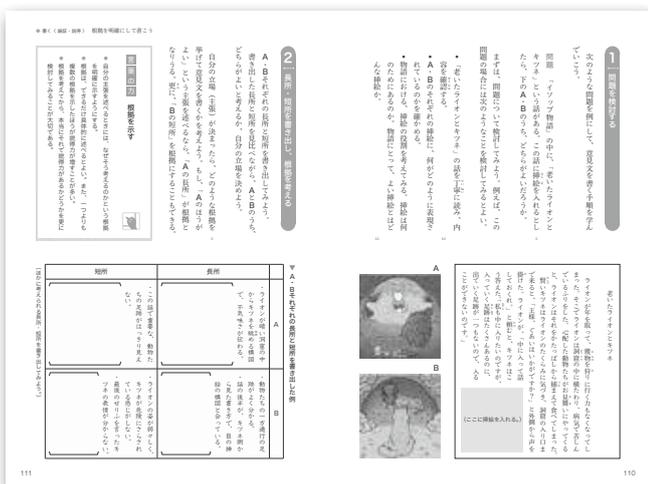
- 美しく豊かな日本語に触れる機会が多く設けられています。
- 古典は、写真資料が豊富に掲載されるなど、丁寧に扱われています。また、近代文学や近代詩の名作も、全学年に掲載されています。

② 情報化・国際化の進む現代社会を担っていく素養を育む題材
見方を変えると、世界が広がる。

- 文化論や科学論が取り上げられていて、物事を多面的に見ることの大切さを学ぶことができます。
- メディアリテラシーは全学年で扱われています。情報の受信者・発信者の、双方の姿勢が学べるように工夫されています。



左下：p.174-「集まって住む」
右上：p.186-「ニュースの見方を考えよう」



p.109-「根拠を明確にして書こう」

③ 論理的・批判的に考え、
説得力をもって伝える力を磨く題材
「確かだ。」と言うのは、
簡単なことではない。

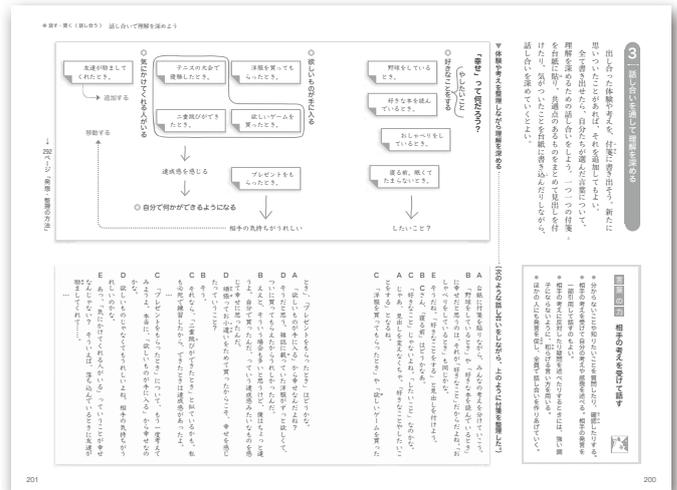
- 知的好奇心に訴える題材で、明快な構成の説明文がそろっていて、論理的な考え方や書き方を学べます。
- 「書く」では、説得力のある意見文を書くことを、3学年を通して学んでいきます。

④ 豊かな想像力と、共感する心、他者と協働する精神を養う題材

葛藤と決意。今、大人への扉を開く。

左：p.36-「飛べ かもめ」

右：p.197-「話し合いて理解を深めよう」



- 文学では、登場人物の思いや意志に触れながら、想像力や共感する心を育てていくことができます。
- 平和への思いを受け継ぐ作品が各学年に掲載されています。
- 「話す・聞く」では、協働的な学びができるように、活動の内容や流れが工夫されています。

3. 学ぶ心に、火をつける。

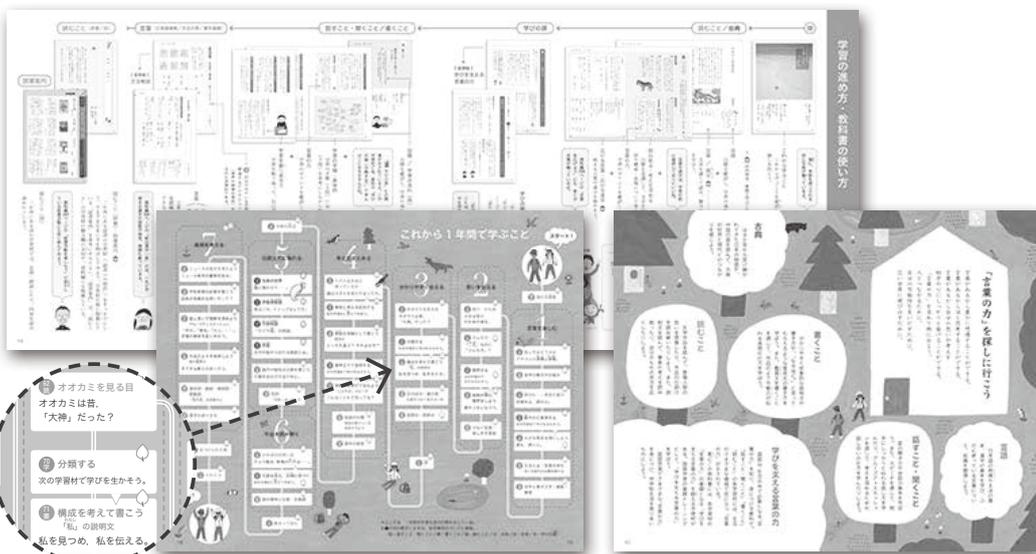
—生徒を主体的な学びへとぎざなう仕掛けを随所にちりばめました。

① 国語の学びへの関心を高め、進んで学習に入っていけるような紙面になっています。

- 個性ある6人の生徒たちと案内役のキャラクターが登場し、彼らとともに学んでいくスタイルになっています。
- ゲーム感覚で学べる「文法の窓」、豊富な語彙が用例とともに示されている「言葉を広げよう」、さまざまな図書が紹介文と写真入りで取り上げられている「読書案内」など、学ぶ意欲を引き出すページが随所に設けられています。
- 基礎編・資料編を中心に、家庭学習に使える学習材が多く用意されています。

② 生徒自身が学びの見通しを持ったり、これまで学んだことを振り返ったりすることができます。

- 巻頭の折り込みで、国語科のねらいや学習の進め方を、生徒自身が確かめることができます。
- 巻末の「言葉の力 一覧」で3学年の学習のつながりをつかむことができます。また、「学びを支える言葉の力」では、学んだことが国語や他教科の学習、実生活にどう生きていくのかを、「つながる・広がる」の欄で知ることができます。



つながる・広がる

学習のつながり 書「P17」構成を考えて書こう 語「P15」具体例を挙げて伝えよう 語「P18」ニュースの見方を考えよう

語「P19」話し合いて理解を深めよう

生活への広がり 情報は、分類することで、よりよく理解できるようになり、より使いやすくなる。分類する力は、調べ学習でさまざまな情報を集めたり、話し合いでさまざまな意見が出てきたりしたときに生かそう。

p.9-「言葉の力」を探しに行こう、 p.11-「学習の進め方・教科書の使い方」、 p.15-「これから1年間で学ぶこと」

p.230-「分類する」より

3. 対照表

教育基本法に定められた教育の根本精神に基づき、幅広い知識・教養と思考力、豊かな人間性、伝統文化を受け継ぐ心、未来を切りひらく創造性と公共の精神を育む、多彩な学習材や学習活動が調えられています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 ()内は、教育基本法 第1章 第2条のうち、特に関連の深いものを示す。	該当箇所
四季を楽しむ言葉	・季節ごとの伝統的な行事や遊び、生活を表す言葉に触れて、我が国の伝統や言語文化に親しみを持つことができます。(第5号)	➡ 巻頭口絵
1 言葉を楽しむ	・コミュニケーションの基本、「話し方」から学びが始まります。(第3号) ・詩の鑑賞と創作を通して、豊かな情操を育みます。(第1号)	➡ 18～22ページ ➡ 24～31ページ
2 思いを捉える	・少年の葛藤と成長を描いた「飛べ かもめ」を通して自律の精神を、職人の弟子の決意を描いた「さんちき」を通して勤労を重んずる心を育みます。(第2号) ・相手の話を共感的に聞くことを学び、他者を尊重する態度を養います。(第3号)	➡ 36～40, 41～52ページ ➡ 55～57ページ
3 分かりやすく伝える	・オオカミに対する見方の相違や変化を論じた「オオカミを見る目」を通して、価値観の多様性や環境の保全についての認識を深めます。(第1・4号) ・自分について伝える文章を書き、読み合うことによって、他者をよりよく理解し、相互に尊重し合う態度を養います。(第3号)	➡ 62～68ページ ➡ 71～78ページ
4 考えをまとめる	・「スズメは本当に減っているか」を通して科学的なものの見方を、根拠を明示して意見文を書くことを通して論理的な考え方を学びます。(第1号) ・ことわざについてのスピーチをして、言語文化への認識を深めます。(第5号)	➡ 98～106, 109～113ページ ➡ 115～120ページ
5 伝統文化に触れる	・導入学習材「古典の世界」で古典への関心を高めます。(第5号) ・豊富な写真資料と併せて古典を学び、伝統文化に親しみます。(第5号) ・案内や報告の文章を書いて、社会と関わっていく態度を養います。(第3号)	➡ 128～133ページ ➡ 134～151ページ ➡ 152～153ページ
6 作品を読み解く	・少年時代の熱情と悔恨を描いた「少年の日の思い出」を通して、豊かな情操と自律の精神を育みます。(第1・2号)	➡ 156～169ページ
7 表現を考える	・ニュース制作の裏側を明かす「ニュースの見方を考えよう」を読み、ニュースの編集や、インターネットの情報の読み比べに取り組みたり、学校新聞の記事を書いたりして、情報を受信・発信する際の注意点を学びます。(第1・3号) ・話し合いの活動を通して、公共的・協働的な態度を養います。(第3号) ・歌の鑑賞文を書くことを通して、個性を磨き、創造性を養います。(第2号)	➡ 186～193, 194～196ページ ➡ 197～202ページ ➡ 203～208ページ
読書への招待/ 読書案内	・原爆の悲劇を伝える「碑」を読み、生命を尊び平和を願う心を育みます。(第4・5号) ・街や住居について歴史的・文化的な視点から論ずる「集まって住む」を読んで、生活や社会の在り方について考えるとともに、郷土を愛する心を育みます。(第3・4・5号) ・芥川龍之介の「トロッコ」を読み、近代文学に親しみます。(第1・5号) ・一年間を通して多種多様な読書案内が配置され、3学年で305冊ものさまざまなジャンル・テーマの本が紹介されています。(第1～5号)	➡ 82～93ページ ➡ 174～181ページ ➡ 214～222ページ ➡ 94～96, 223～225ページ ほか
詩	・一人一人の多様性とその調和をうたう「風の五線譜」、主体的に生きる決意をうたう「名づけられた葉」を学びます。(第2号) ・「日本語のしらべ」として、中原中也の「月夜の浜辺」を学びます。(第5号)	➡ 巻頭見返し、212～213ページ ➡ 124～126ページ
広がる言葉	・学年に4か所ある「広がる言葉」で語彙を広げることができます。(第1号)	➡ 53ページ ほか
【基礎編】	・国語科だけでなく、全教科および実生活にも生きる、基礎的な知識・技能(「学びを支える言葉の力」)を取り立てて学び、鍛えていきます。(第1号)	➡ 230～247ページ
【資料編】	・本編の作品と読み比べられる小説・説明文や古典作品、語彙・漢字資料など、多くの資料が掲載され、自主的な学習に役立てることができます。(第1～5号)	➡ 266～328ページ

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての生徒の学びが確かなものとなるように、カラーバリアフリーを含めたユニバーサルデザインや、特別支援教育等の観点から、次のような配慮がなされています。

- 全ての生徒にとって、紙面上の各部分の区分けや働きが分かりやすく、重要な部分が判別しやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色遣いなど、デザイン・レイアウトの工夫がなされています。
- 小学校で学習していない漢字には、学習材ごとの初出箇所に振り仮名が付けられていて、生徒の抵抗感を和らげています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-31	中学校	国語科	国語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 727	新編 新しい国語 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 「言葉の力」を、しっかり鍛える。

—どんな力を、どうやって身につけるのか。その問いに答える教科書です。

- 国語学習で身につけたい知識・技能のポイントが、「言葉の力」として、各学習材に明確に示されています。
- それぞれの「言葉の力」は、各学習材間でつながりを持ちながら、中学校3年間で系統的に積み上がるように配置されています。習得した知識・技能を後の学習で活用することによって、思考力・判断力・表現力を高めることができます。
- 基礎編「学びを支える言葉の力」では、「話す・聞く」「書く」「読む」に共通して必要となる基礎的な「言葉の力」(知識・技能)を、取り立てて鍛えることができます。本編の「学びの扉」が、「学びを支える言葉の力」への入り口となっています。



- ◎各学習材には、学習のねらいや進め方が分かりやすく示され、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されています。
- ◎「話す・聞く」「書く」の学習材では、生徒の活動の助けとなるよう、具体例が豊富に盛り込まれています。また複数の完成作品例が示されるなど、生徒の多様な思考・表現を支援する配慮がなされています。

話すこと・聞くこと／書くこと

目標／学習の流れ（例）

- 学習材冒頭に示されている目標と、「学習の流れ（例）」を確認し、学習の見通しを持つ。

学習の手順・具体例／言葉の力

- 初めに、必要に応じて、基本的な技能の練習をする。
- 学習材の上段で、言語活動の手順を学ぶ。適宜、学習のポイントである「言葉の力」を確認する。
- 活動の過程では、学習材の下段の具体例を参考にする。学習材末尾の完成作品例（適宜複数示されている）も参考にする。

学習を振り返ろう

- 最後に学習を振り返り、目標に照らして自己評価を行う。



p.71~「構成を考えて書こう」

読むこと

目標

- 学習材冒頭および「てびき」に示されている目標と、「てびき」に示されている言語活動を確認し、学習の見通しを持つ。

文章／脚注／読み取る・考えを深める／言葉の力

- 文章を通して読み、脚注の言葉や漢字を確かめる。
- 「てびき」の「読み取る」設問に沿って、内容を読み取る。
- 「てびき」の「考えを深める」設問に沿って、内容や構成・表現について考えを深める。
- 「言葉の力」で学習のポイントを確認する。

広がる言葉・広がる漢字

- 文章と関連して、使える言葉や漢字を増やす。



p.62~「オオカミを見る目」

2. 知性と感性を、もっと豊かに。

—日本の言語文化を受け継ぎ、未来を切りひらいてゆく言葉の担い手を育てます。

新…「読むこと」「古典」の新学習材、書…教科書のために書き下ろした作品

読むこと ● 文学

- 風の五線譜 高階紀一 [詩]
- 扉の詩七編 [詩] 口絵 扉 うち三編 **新**
- 詩の心—発見の喜び 嶋岡 晨 [詩の鑑賞文]
- 飛べ かもめ 杉 みき子 [小説] **新**
- さんちき 吉橋通夫 [小説]
- 月夜の浜辺 中原中也 [詩]
- 少年の日の思い出 ヘルマン・ヘッセ [小説]
- 名づけられた葉 新川和江 [詩] **新**
- トロッコ 芥川龍之介 [小説] 読書
- 【資料編】そこに僕はいた 辻 仁成 [小説]

- ◎現代の作家の新鮮な作品から定評のある作品、近代文学の名作まで、幅広い作品が掲載されています。
- ◎登場人物の思いや意志に触れながら、想像力や共感する心を育てていくことができます。
- ◎各扉に詩歌が配置され、美しい日本語に触れることができます。



「さんちき」より

読むこと ● 説明文

- 話し方はどうかな 川上裕之 [随筆]
- オオカミを見る目 高槻成紀 [説明文] **書**
- 碑 広島テレビ放送/松山善三 [ドキュメンタリー] 読書
- スズメは本当に減っているか 三上 修 [説明文] **新 書**
- 集まって住む 元倉真琴 [説明文] 読書 **新**
- ニュースの見方を考えよう 池上 彰 [説明文] **書**
- 【資料編】「常識」は変化する 古田ゆかり [説明文] **書**

- ◎学習目標に則した書き下ろしの文章が数多くあります。
- ◎構成の明快な文章を通して、論理的・批判的に考える力を磨くことができます。読み比べや図表の読み取りも扱われています。
- ◎文化論、科学論、メディアリテラシー等の、知的好奇心に訴える文章から、多様な考え方を学ぶことができます。



「スズメは本当に減っているか」より

四季を楽しむ言葉 口絵 新
 いろは歌 口絵 扉 新
 古典の世界 新
 伊曾保物語 犬と肉のこと／鳩と蟻のこと
 竹取物語 冒頭／昇天 (別れの場面)
 矛盾
 【資料編】 古事記／土佐日記／伊勢物語／源氏物語 新／
 方丈記 新／浦島太郎 (御伽草子) 新／
 芭蕉・蕪村・一茶の句

- ◎「四季を楽しむ言葉」では、暮らしの中で受け継がれてきた季節感豊かな言葉に触れることができます。
- ◎古典の学習材では、鑑賞・紹介の文章や美しい写真資料が豊富に掲載されていて、伝統的な言語文化の豊かさを知り、古典作品に親しめるように、工夫されています。



「古典の世界」より

会話が弾む質問をしよう
 具体例を挙げて伝えよう 「ことわざ」スピーチ
 話し合いで理解を深めよう グループディスカッション

- ◎友達と言葉を交わして、よりよく理解し合いながら学びを深める活動が取り上げられています。
- ◎互いに認め合い、高め合い、協力し合う心性を育むことができます。



「話し合いで理解を深めよう」より

小さな発見を詩にしよう
 構成を考えて書こう 「私」の説明文
 根拠を明確にして書こう 意見文
 案内や報告の文章を書こう
 学校新聞の記事を書こう
 作品のよさを表現しよう 歌の鑑賞文
 【資料編】 原稿用紙の使い方・推敲の観点／手紙の書き方／
 新聞の作り方／レポートの書き方

- ◎実用的な文章、論理的な文章、創造的な文章と、多様な文種を書く活動がそろっています。
- ◎分かりやすく説得力をもって書くことを通して論理的思考力を、発想豊かに書くことを通して想像力を養っていくことができます。



「作品のよさを表現しよう」より

3. 学ぶ心に、火をつける。

— 生徒を主体的な学びへといざなう仕掛けを随所にちりばめました。

- ◎ **楽しく学ぶ** 個性あるキャラクターが登場し、生徒にさまざまな気づきを促してくれます。また、苦手意識を持たれがちな文法をゲーム感覚で楽しく学べる「文法の窓」が設けられているなど、学ぶ意欲を高める数々の工夫がなされています。
- ◎ **学び方を知る** 巻頭折り込みには、国語で何を学ぶのかということや学習の進め方が、生徒にも分かるように示されています。また、中学1年の最初に確認しておきたい小学校の既習事項が、「学習を始める前に」として資料編に掲載されています。
- ◎ **つながる・広がる** 巻末には3学年の「言葉の力 一覧」が掲載されていて、3年間の学習の流れを見通すことができます。また、「学びを支える言葉の力」には、学んだことが国語や他教科の学習、実生活にどう生きていくのかが示されています。
- ◎ **語彙を豊かにする** 「読む」学習材末に「広がる言葉」、資料編に「言葉を広げよう」が設けられていて、生徒の語彙を豊かにする手立てが工夫されています。「広がる言葉」「言葉を広げよう」には、3学年で1570の言葉が掲載されています。
- ◎ **読書が進む** 教科書で読んだ作品をきっかけに、さまざまな本に手を伸ばすことができるように、「読書案内」が工夫されています。多種多様なテーマの本、古典、翻訳書、話題の作品から名作まで、3学年で305冊の本が紹介されています。
- ◎ **家庭で学ぶ** 資料編には、本編の作品と関連させて読むことのできる文学・説明文・古典の作品や、「話す・聞く」「書く」の学習に役立つさまざまな資料が掲載されています。資料編の学習材は家庭学習で活用することもできます。



p.121 「単語の分類」



p.266- 「学習を始める前に」



p.284- 「本と出会おう」



p.299- 「言葉を広げよう」

教科書の特徴	
教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 教育基本法の目的と理念を実現するため、特に次の4点を育むことを重視して編集されています。 <ol style="list-style-type: none"> ① 幅広い知識・教養と思考力 ② 豊かな人間性 ③ 伝統文化を受け継ぐ心 ④ 未来を切りひらく創造性と公共の精神
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 中学校学習指導要領（国語）に示された教科の目標に則り、指導事項と言語活動例はもれなく扱われています。 各指導事項を多彩な言語活動を通して習得・活用することができ、知識・技能と思考力・判断力・表現力を養えます。 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が重視されていて、伝統文化や言語について深く学ぶことができます。
内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習が、相互に関連しながら、3年間で系統的に積み上がるように構成されています。また、各領域を支える基礎的な力を鍛える「学びを支える言葉の力」が設けられています。 「伝統的な言語文化」「国語の特質」の学習は、生徒が意欲的に取り組み、確かな力をつけられるように工夫されています。 生徒の知的好奇心に訴え、知性と感性を育む、多彩な題材が用意されています。
配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 本編・基礎編・資料編の3部から成っています。学習指導要領の内容は本編で網羅されており、基礎編・資料編を用いて、適宜学習の深化や拡充が図れます。 3学期制でも2学期制でも各領域等の指導がバランスよくなされるように、学習材の配列が考えられています。
学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の各学習材に、身につけたい知識・技能が「言葉の力」として明示されていて、その着実な習得が図られています。 習得した「言葉の力」を後の学習で活用することによって、思考力・判断力・表現力を高められるようになっていきます。 各領域の「言葉の力」を支える基礎的な力を、「学びの扉」と、それにつながる基礎編「学びを支える言葉の力」において、しっかり鍛えることができます。 複数の文章を読み比べる活動や、図表を読み取ったり作成したりする活動が、全学年に用意されています。 語彙・文法・漢字を確実に習得するための学習材が設けられ、また、生徒の語彙を豊かにする工夫がなされています。
学習意欲・主体的な学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭折込みに、国語学習の意義と進め方、1年間の見通しが、生徒にも分かりやすく示されています。 巻末の「言葉の力 一覧」を用いて、3年間の学習を見通したり振り返ったりすることができます。また、資料編の「学習用語一覧」を用いて、具体的に学習内容を確認したり振り返ったりすることができます。 「学びを支える言葉の力」では、学んだことが国語や他教科の学習、実生活にどう生きていくのかを確かめられます。 多種多様な「読書案内」や「言葉を広げよう」などで、主体的に読書をしたり語彙を豊かにしたりする態度を養えます。 キャラクターの使用、ゲーム仕立ての学習材、折込みの効果的な使用など、生徒の学習意欲を高める工夫が豊富です。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> 我が国で長く読み継がれてきた優れた古典作品が、多くの美しい写真資料とともに掲載されています。 古典の鑑賞・紹介の文章も豊富に掲載されています。また、近代文学や近代詩の名作も、全学年に掲載されています。 口絵と扉に季節感のある言葉や詩歌が掲載されていて、一年を通じて日本の豊かな風土に培われた言語文化に親しめます。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」でも、日本の伝統・文化に関する文章や言語活動が多く扱われています。
今日的課題の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> 次のように、さまざまな今日的課題に対応した内容が扱われています。（〔 〕内は扱われている学年・ページの例） <ul style="list-style-type: none"> 生命の尊重、安全・防災 [3年 p.184~] 環境 [3年 p.62~] 人権・福祉 [2年 p.80~] キャリア教育 [3年 p.174~] 食育 [2年 p.60~] 郷土への思い [3年 p.52~] 国際理解・平和 [1年 p.82~] メディアリテラシー [1年 p.186~]
小学校・高校との関連	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉の力」は、小学校国語の学習内容を受け、小中9年間の見通しを持って系統的に設定されています。 1年では「学習を始める前に」で、小学校で学んだ、国語学習の土台となる内容を、適宜確かめることができます。 3年では評論文が多く扱われ、資料編で「古典の文法」も学べるなど、高校国語へ移行しやすいように配慮されています。
他教科・実生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> 全教科の学習と実生活の言語活動を支える基礎的な力を、「学びを支える言葉の力」で鍛えることができます。 レポートや、手紙、スピーチ、多様な話し合いなど、他教科の学習や実生活で生きる言語活動が豊富に扱われています。 社会、理科、技術・家庭、音楽など、他教科と関連する題材が積極的に取り上げられています。
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな情操を育む文学作品、共感する心を養うドキュメンタリー、公共の精神を育てる協働的な言語活動が豊富です。
家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭折込みに学習の進め方が示され、その中で、家庭でも扱うことができる学習内容にマークが付けられています。 特に資料編には、自学できる素材が多く掲載されています。例えば「言葉を広げよう」には、3学年で1412もの言葉が、分類されて、全て例文つきで示されていて、生徒が語彙を豊かにしていけるようになっています。
読書生活への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な「読書案内」が用意されていて、3学年で305冊もの本が、紹介文と写真入りで掲載されています。 読んだ本を紹介したり、その内容について話し合ったりする読書活動が、全学年に複数示されています。
情報活用・ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 全学年に「言葉とメディア」の系統が設けられていて、メディアリテラシーを深く学ぶことができます。 デジタルコンテンツを利用することが効果的な学習材には、そのことを示すマークが付けられています。
特別支援・ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の観点から、内容およびデザインについて検討・校閲がなされています。全ての生徒にとって、各部分の認識や重要な部分の判別がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲みの使い方、色遣いが工夫されています。 カラーバリアフリーの観点からも、全ページにわたり配色とデザインの検証が行われています。 小学校で学習していない漢字には、学習材ごとの初出箇所に振り仮名が付けられていて、生徒の抵抗感を和らげています。
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> 本文書体に、小学校教科書で使用されている教科書体に筆遣いや字形を合わせた、特別な明朝体を使用されています。 環境への配慮から、再生紙・植物油インキが用いられています。本文用紙は軽量化が図られ、製本は堅牢です。

2. 対照表

ページ	学習材名	指導事項・言語活動例との対応				配当時数				配当学期
		話	書	読	伝	話	書	読	伝	
巻頭	風の五線譜			ア/囿ア				1		一学期 39時間 書・字 9時間
18	話し方はどうかな			ア/囿ア				2		
23	音声の働きや仕組み				イ(ア)				1	
24	詩の心——発見の喜び			ア,オ/囿ア				2		
29	鮮やかに表現する		エ		イ(オ)		1			
30	小さな発見を詩にしよう		エ				3			
32	文法とは・言葉の単位				イ(エ)				1	
33	活字と書き文字・画数・筆順				ウ(ア), (イ)				1	
36	飛べ かもめ			ウ,オ/囿ア				3		
41	さんちき			ウ,オ/囿ア				4		
54	質問する	エ					1			
55	会話が弾む質問をしよう	エ/囿イ					2			
58	つなぐ言葉・指し示す言葉				イ(エ)				1	
62	オオカミを見る目			イ,エ				4		
70	分類する		イ				1			
71	構成を考えて書こう		ア,イ				6			
79	文の成分・連文節				イ(エ)				2	
80	音読み・訓読み				ウ(ア), (イ)				1	
82	碑			カ/囿ウ				2		
98	スズメは本当に減っているか			イ,オ/囿イ				5		
108	事実と考えを区別する			イ				1		
109	根拠を明確にして書こう		ウ,オ				6			
114	順序立てて説明する	イ					1			
115	具体例を挙げて伝えよう	イ,ウ/囿ア					5			
121	単語の分類				イ(エ)				2	
122	漢字の部首				ウ(ア), (イ)				1	
124	月夜の浜辺			ア/囿ア				1		
128	古典の世界			オ	ア(イ)			1	(1)	
134	伊曾保物語			エ	ア(ア)			3	(3)	
139	竹取物語			オ	ア(ア)			4	(4)	
148	矛盾		ア	ア	ア(ア)		1	2	(3)	
152	案内や報告の文章を書こう		イ/囿ウ				3			
154	名詞				イ(エ)				1	
156	少年の日の思い出			ウ,エ				6		
171	文脈を捉え、伏線に気づく			ウ				1		
172	語の意味と文脈・多義語				イ(イ), (ウ)				1	
174	集まって住む			カ/囿ウ				2		
186	ニュースの見方を考えよう			オ				3		
194	学校新聞の記事を書こう		ウ/囿イ				3			
197	話し合いで理解を深めよう	ア,オ/囿イ					6			
203	作品のよさを表現しよう		ア,ウ/囿ア				6			
209	連体詞・副詞・接続詞・感動詞				イ(エ)				1	
210	漢字の成り立ち				ウ(ア), (イ)				1	
212	名づけられた葉			ア,オ				2		
214	トロッコ			エ				4		
計						15	30	53	14	112
書写および予備										28
総計										140

前期60時間／書・字9時間
書・字8時間

一学期39時間／書・字9時間

二学期47時間／書・字9時間

後期52時間／書・字20時間

三学期26時間／書・字10時間

【備考】

- ・見出し欄の、「話」は「話すこと・聞くこと」領域、「書」は「書くこと」領域、「読」は「読むこと」領域、「伝」は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を表す。
- ・「指導事項・言語活動例との対応」の「話」「書」「読」欄に、**囿**とともに示された記号は言語活動例を表し、それ以外の記号は指導事項を表す。
- ・「配当時数」の「伝」欄に、括弧付きで示された数字は、それぞれの学習材における「書」および「読」の配当時数を合計したものである。
- ・「配当学期」欄に、**書・字**とともに示された数字は、書写および予備の時数である。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ(ウ)」は、上表に記載した学習材のほか、「読むこと」の全ての学習材で扱っている。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ウ(ア)」のうち、学年別漢字配当表の漢字については、読み慣れることを目的として全ての学習材で扱っている。その他の常用漢字については、377字を第1学年で新出漢字として提出している。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ウ(イ)」は、上表に記載した学習材のほか、「書くこと」の全ての学習材で扱っている。特に小学校6年で学習した漢字は、「小学校6年の漢字一覧」で確かめられるようにしている。